

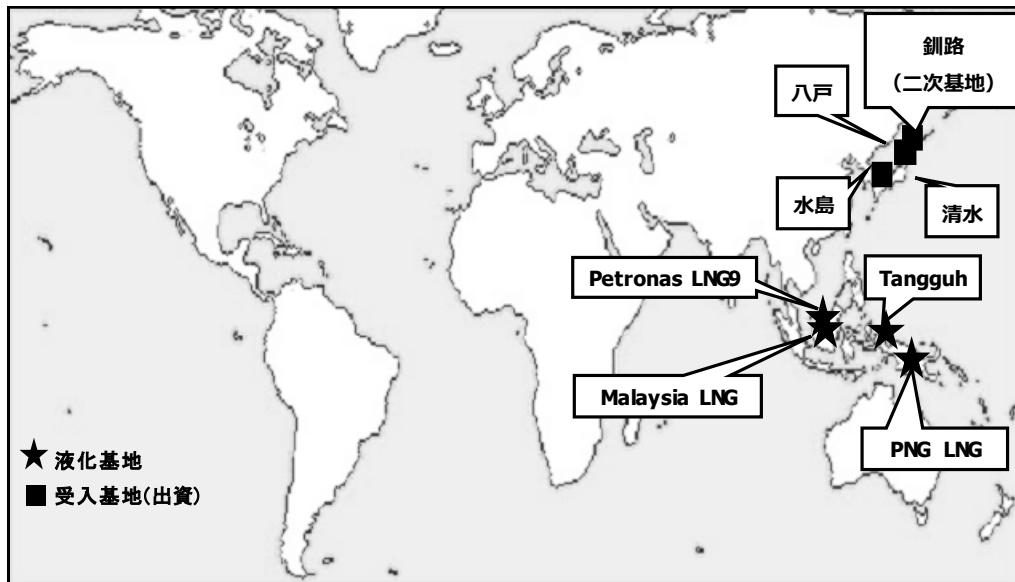
22. ENEOS

(1) 企業概要

ENEOS ホールディングスの前身の JXTG ホールディングスは、2017 年 4 月の JX ホールディングスと東燃ゼネラル石油の経営統合により誕生した。JX ホールディングスは 2010 年 4 月の新日本石油と新日鉱ホールディングスの経営統合により誕生したが、両社が展開していた全事業が JX エネルギー（エネルギー事業）、JX 石油開発（石油・天然ガス事業）、JX 金属（金属事業）の傘下会社 3 社に再編された。東燃ゼネラル石油は JX エネルギーに吸収合併される形で再編され、JXTG エネルギーとして発足した。2019 年 11 月、意思決定と業務執行の迅速化を図り、変化の激しい事業環境に対応していくため、抜本的な構造変革を進めることを目的に、純粋持株会社の下に 3 つの中核事業会社を有する体制から、JXTG エネルギーと JXTG ホールディングスの経営を実質的に統合し、グループで最も大きなウエイトを占める JXTG エネルギーを中心に据えた体制に変更すると発表した。体制変更に伴い、2020 年 6 月 JXTG ホールディングスは「ENEOS ホールディングス」に、JXTG エネルギーは「ENEOS」に商号を変更した。ENEOS の国内燃料油の販売シェアは 47%（2019 年度実績）で国内 1 位である。

ENEOS グループの 2020 年 3 月末時点の石油・天然ガス埋蔵量は 5.0 億 boe であった。2019 年度の石油・ガスの生産量は、10.5 万 boe/d であった。

ENEOS グループの LNG 液化・受入基地図



(2) LNG 関連

ENEOS グループは、液化事業ではマレーシア、インドネシアおよびパプアニューギニア

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

でのプロジェクトに出資している。

また、「総合エネルギー企業」として国内でのガス事業拡大を追求しており、2011年にGorgonプロジェクト、2012年にはShell、2014年にはマレーシア LNG 社から LNG を購入する売買契約を締結した。これらの契約により調達した LNG は、水島 LNG 基地または2015年に営業運転を開始した八戸 LNG ターミナルで受入れている。

ENEOS グループが出資する LNG プロジェクト

| 国名 | プロジェクト名 (Train名) | 液化能力 (万トン/年) | 生産開始 | 出資者 | 主要仕向地 |
|---------------|---------------------------------|-----------------|------------------|--|-------|
| マレーシア | MLNG III (Tiga) (Train 7, 8) | 760 | 2003年 | MLNG Tiga (Petronas 60%, ENEOS 10%, Sarawak州政府 25%, DGN 5% (三菱商事/JAPEX=4:1)) | アジア |
| | Petronas LNG 9 (Train 9) | 360 | 2017年 | Petronas 65%, ENEOS 10%, PTTGL Investment Limited 10%, Sarawak州政府 10%, Sabah州政府 5% | アジア |
| インドネシア | Tangguh (Train 1, 2) | 760 | 2009年 | bp 40.22%, MI Berau B.V.(三菱商事 56%, INPEX 44%) 16.3%, CNOOC 13.9%, 日石ベラウ石油開発 12.23%, KG Berau Petroleum 8.56%, KG Wiriagar 1.44%, エルエヌジー・ジャパン 7.35% | アジア |
| | (Train 3) | 380 | 2021年予定 (建設中) | | アジア |
| パプア ニューギニア | PNG LNG (Train 1, 2) | 800強 | 2014年 | ExxonMobil 33.2%, Oil Search 29.0%, Kumul Petroleum 16.8%, Santos 13.5%, Nippon Papua New Guinea LNG LLC (JX石油開発 79%, 丸紅 21%) 4.7%, MRDC 2.8% | アジア |
| | (Train 3) | 267 | 計画中 | | N.A. |

ENEOS グループの LNG 契約

| 輸出国 | プロジェクト | 契約期間 (契約年数) | 契約数量 (万トン/年) | 受渡条件 |
|---|---------|---------------------|-----------------|------|
| オーストラリア | Gorgon | 2015-2030年 (15年) | 30 | DES |
| Shell Eastern Trading による 複数の供給源 (ポートフォリオ契約) | | 2015-2032年 (17年) | 20 | DES |
| マレーシア | MLNG II | 2015-2025年 (10年) | 38 | DES |

ENEOS グループが出資する受入基地

| 国名 | 基地名 | 出資者 | 受入能力 (万トン/年) | 受入開始 |
|----|----------------------|---------------------------------|-----------------|-------|
| 日本 | 水島LNG基地 (一次基地) | 水島エルエヌジー(中国電力 50%, ENEOS 50%) | 100 | 2006年 |
| | 八戸LNGターミナル (一次基地) | ENEOS | 100 | 2015年 |
| | 釧路LNGターミナル (二次基地) | 釧路エルエヌジー(北海道ガス 50%, ENEOS 50%) | 10 | 2015年 |
| | 清水LNG袖師基地 | 清水エル・エヌ・ジー(静岡ガス 65%, ENEOS 35%) | 120 | 1996年 |

(3) 今後の戦略

ENEOS グループでは第 1 次中期経営計画(2017 年から 2019 年度まで)で「基幹事業の収益力強化」、「キャッシュフローと資本効率の重視」及び「経営基盤の強化」を基本方針として諸施策に取り組んできた。これに加え「2040 年 JXTG グループ長期ビジョン」ではありたい姿として、「アジアを代表するエネルギー・素材企業」、「事業構造の変革による価値創造」、「低炭素・循環型社会への貢献」を挙げている。第 1 次中期経営計画の最終年度である 2020 年 3 月期の連結業績は期末の原油価格の暴落による在庫評価の減損計上や、石油・天然ガス開発事業における減損損失計上等があったものの、3 か年累計キャッシュフロー及び当連結会計年度のネット D/E レシオの目標は達成し、一定の財務基盤を確立した。このような状況の中、2020 年 5 月、ENEOS グループでは 2040 年長期ビジョンの実現に向けて、第 2 次中期経営計画(2020~2022 年)を発表した。基本方針としては、「長期ビジョン実現に向けた事業戦略とキャッシュフローを重視した経営の両立」、「経営基盤の強化」をあげており、戦略投資については 8,300 億円を充てる計画である。

石油・天然ガス開発の事業戦略としては、高精度の生産予測や遠隔操業による効率化等のデジタル技術を積極導入することにより、既存資産の価値最大化及び競争力強化を図る。

国内においては JERA、大阪ガスとともに設立した、都市ガスの製造や供給を行う扇島都市ガス供給が 2020 年 4 月に商業運転を開始した。また、2018 年 9 月には東京電力フュエル & パワー株式会社と JERA が進める千葉県市原市にある五井火力発電所の LNG 火力発電設備の更新計画の共同開発検討の合意を発表した。2019 年 6 月には同発電所の工事請負契約が締結され、2021 年の建設着工を目指すことが発表された。

小売事業では、2020 年 6 月、北海道及び中国地方で電力販売を開始した。これにより沖縄や離島を除く全国で電力販売を展開している。また、都市ガスについては 2019 年 2 月から東京ガス供給エリアにおいて一般家庭向けガスの申し込みを開始し、次世代の柱となる事業として育成、拡大を図っている。